

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	
演習 (山本) Seminar	必修科目	
	■ ■ 時間割コード	
■ ■ 講義題目	333794	
	■ ■ 年度	■ ■ 時間割
	2011	通年 火5
■ ■ 担当教員	■ ■ 単位数	■ ■ 教室
	4	
山本 裕[Yamamoto Yu]	■ ■ 対象年次及び学科	
	3～ 経済学部	

### ■ ■ 関連授業科目

日本社会経済史、近代経済史、経営史

### ■ ■ 履修推奨科目

日本社会経済史、近代経済史、経営史、現代韓国・朝鮮研究、アジア経済論

### ■ ■ 学習時間

平成24年度からの新設項目につき記載なし

### ■ ■ 授業の概要

本演習では、近現代日本社会経済史、近現代日中経済関係史、近現代東アジア関係史について研究を行う。具体的には19世紀後半～20世紀中葉までの時代を中心に、日本に軸足を置いて、社会経済の歴史を広義に捉えていきたい。

すなわち、日本経済の歴史の変容を問うのであれば、国民経済・経済政策等のマクロ的領域にとどまらず、産業・企業といったミクロ的領域、近現代日本経済が選択した「積極的」な対外経済進出(＝アジアの中の日本経済・日本企業)の歴史の変容をも視野に入れて考察する必要がある。日本社会の変容を問うのであれば、社会を構成する諸要素(外交や軍事を含む広義の政治、文化、教育、「生ある全てのもの」)の歴史の変容をも視野に入れて考察する必要がある。このような広い問題関心を有した上で、個別の研究テーマを選択してほしい。

演習参加者は個別の研究テーマについて研究を進めていくが、同時に、他の演習参加者の研究テーマについても我がことのように捉え、議論することを求める。また、学内の他の演習受講者、本学にとどまらない他大学の日本経済史演習受講者とも研究交流を行い、議論を積み重ねて、受講者各自の学術面にとどまらない成長を期することとする。

### ■ ■ 授業の目的

卒業論文の研究計画書の提出を求めます(A4用紙2枚程度)。「研究題目」、「研究テーマ選択理由」、「選択した研究テーマに関する先行研究リスト」、「先行研究リストに記した文献(1点以上)に関する簡単な内容紹介と、同文献で解明された研究内容」を記して下さい。可能であれば、「研究を行う上で用いると思われる資料(『三菱商事社史』等の社史、『香川県史』等の自治体史、統計資料等)」も記して下さい。

また、2011年度は、慶應義塾大学経済学部柳沢遊研究会(＝ゼミナール)と、春と夏の2回、研究交流合宿を行います。原則として、両合宿へ参加することを要求します(諸事情で参加が不可能な場合は、事前に相談すること)。上述した「卒業論文研究計画書」は、2011年4月16-17日に東京で行われる研究交流春合宿で報告してもらいます(いい加減な内容では、恥をかきます)。9月に福島県で行う研究交流夏合宿では、卒業論文の中間報告をもらいます。春合宿は高松⇄東京間の交通費と宿泊代(1万5千円)。夏合宿は高松⇄福島間の交通費と滞在費(3～4万円程度)を準備して下さい。

なお、演習選考面接の際には、成績表のコピー提出を求めます。成績表を閲覧することで、志望者各自の2年生までの講義への取り組み等を質問します(悪い成績だからといって、それだけで演習履修・受講を認めないということはありません)。また、上記計画書の内容に関する質疑応答も行います。

### ■ ■ 到達目標

平成24年度からの新設項目につき記載なし

### ■ ■ 成績評価の方法と基準

演習から継続して参加する志望者に対しては、前年度末に提出した卒業論文中間報告原稿の内容を判断基準にします。

個別演習から受講を希望する志望者に対しては、1年間の演習で取り組んだ内容をまとめたものと、個別演習志望理由の、両方を記したレポート(A4用紙2枚程度)を提出してもらいます。

### ■ 授業計画並びに授業及び学習の方法

研究報告と議論への参加、輪読における報告と議論への参加、ゼミ交流(上述した春・夏の研究交流合宿と、経営システム学科島西ゼミとのジョイントゼミ(秋～冬に1回を予定))における参加・取り組み、年度末における卒業論文中間報告(原稿も提出)等を見た上で、総合的観点から単位認定を行います。

なお、慶應義塾大学柳沢研究会との研究交流ゼミ合宿については、

<http://www44.atwiki.jp/yanagisawakeio/>

<http://www44.atwiki.jp/yanagisawakeio/pages/17.html>

で、詳細を確認して下さい。

春と夏の研究交流合宿への参加と取り組み状況(就職活動等で参加が不可能な場合には事前に相談すること)、演習への参加・取り組み(無断欠席は厳禁)、卒業論文の執筆。以上三点について総合的観点から単位を認定します。

### ■ 教科書・参考書等

武田晴人『新版 日本経済の事件簿』(日本経済評論社、2009年、3000円+TAX)。

石井寛治編『近代日本流通史』(東京堂出版、2005年、2800円+TAX)。

三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』(東京大学出版会、2010年、2800円+TAX)。

### ■ オフィスアワー

火曜日6・7時限。また、メールにて事前連絡してもらえれば、随時対応する。

### ■ 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

文字数の上限・下限は設定しない。ただし、「課題と視角」、「先行研究整理」、「本論」を兼ね備え、かつ、社史や自治体史の引き写しにとどまらない、これまでの先行研究に対してわずかであっても、新しい知見を盛り込んだ、オリジナリティのある卒業論文を執筆すること。「演習」においては、最低3回の卒業論文に関する報告(春合宿・夏合宿・年度末)。「個別演習」においても最低3回の卒業論文に関する報告(春合宿・夏合宿・後期個別演習)を行い、修正・再調査・再検討を経て卒業論文を完成させる。

### ■ 参照ホームページ

### ■ メールアドレス

yamamoto@ec.kagawa-u.ac.jp